

た ぶん か きょう せい  
多文化共生をめざす

ち いき に ほん ご きょういく やく わり  
地域日本語教育の役割

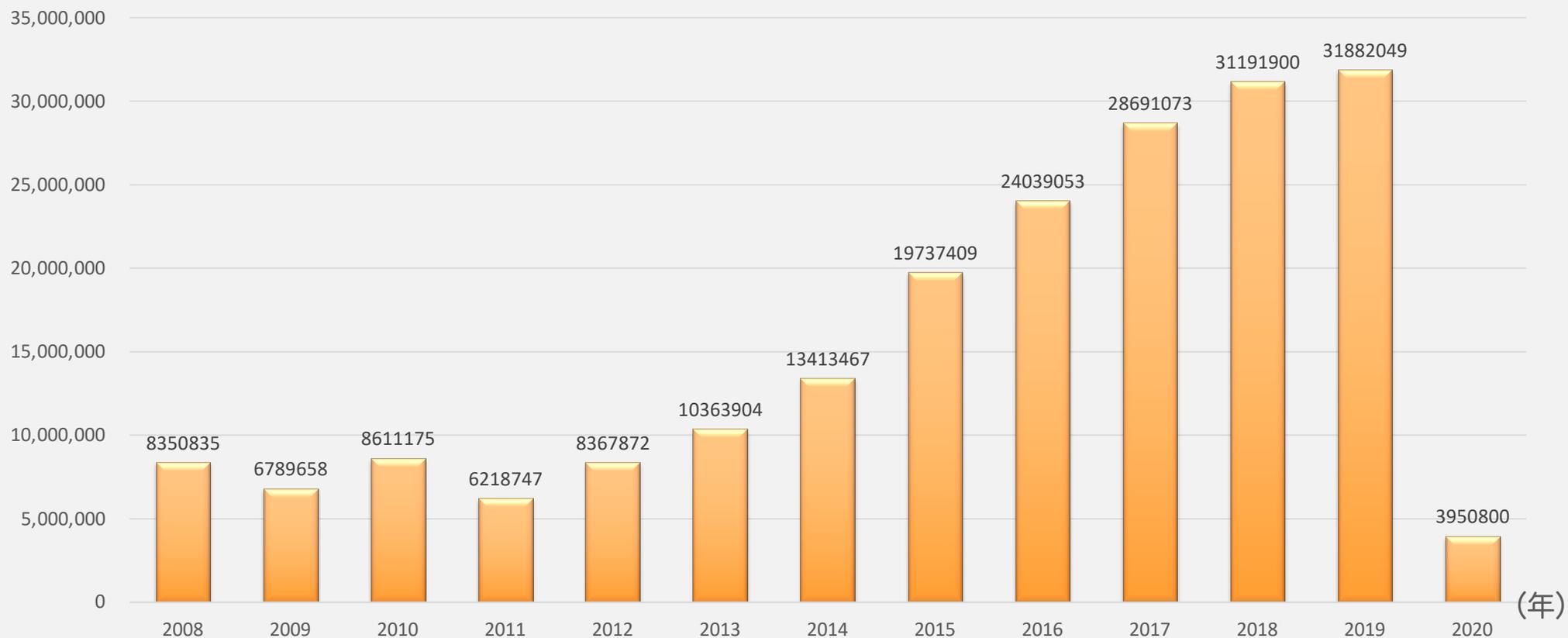
む さし の だいがく に ほん ご きょういくがっかい かみよし ういち  
武蔵野大学・日本語教育学会 神吉宇一

uichik1113@gmail.com

ほう にち がいきやくすう

# 訪日外客数

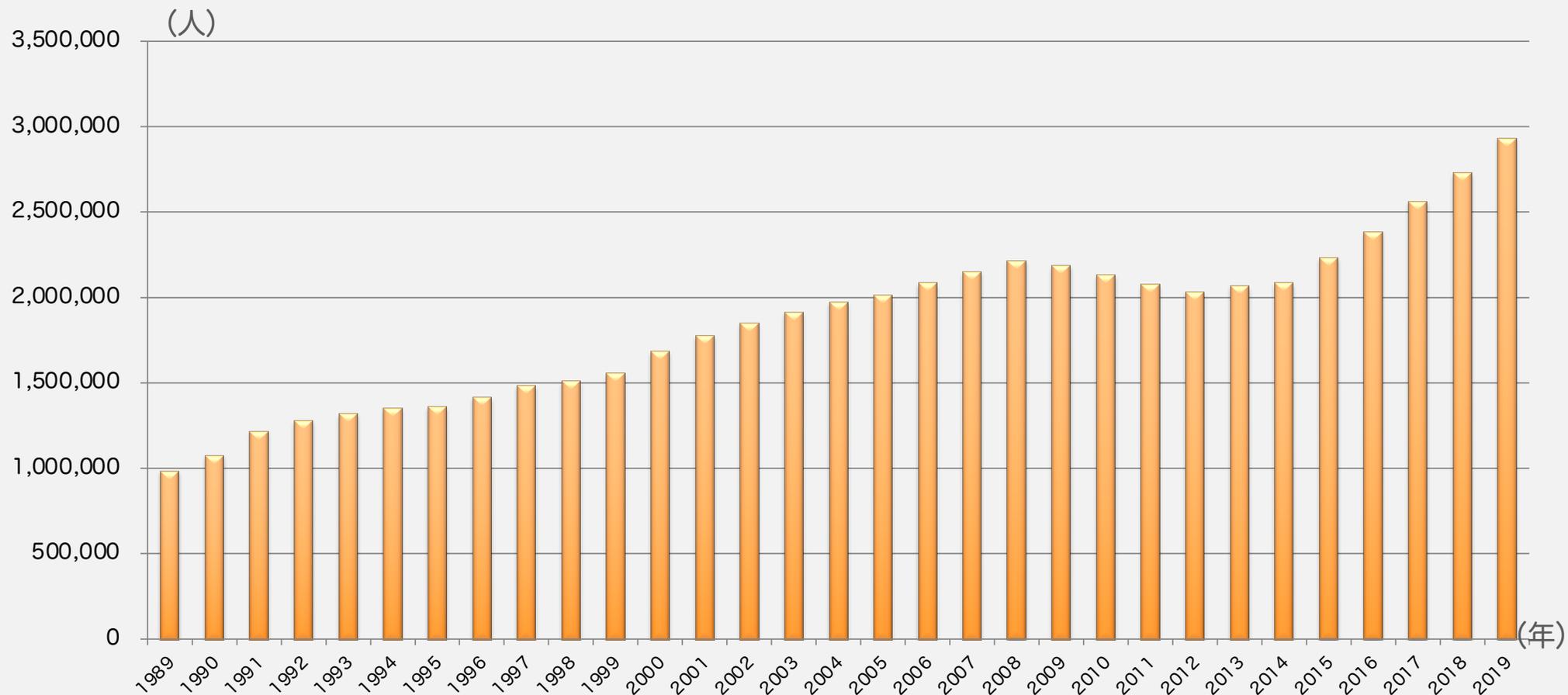
(人)



JNTO統計より発表者作成

がいこくじんとうろくしゃすう      ざいりゅうがいこくじんすう

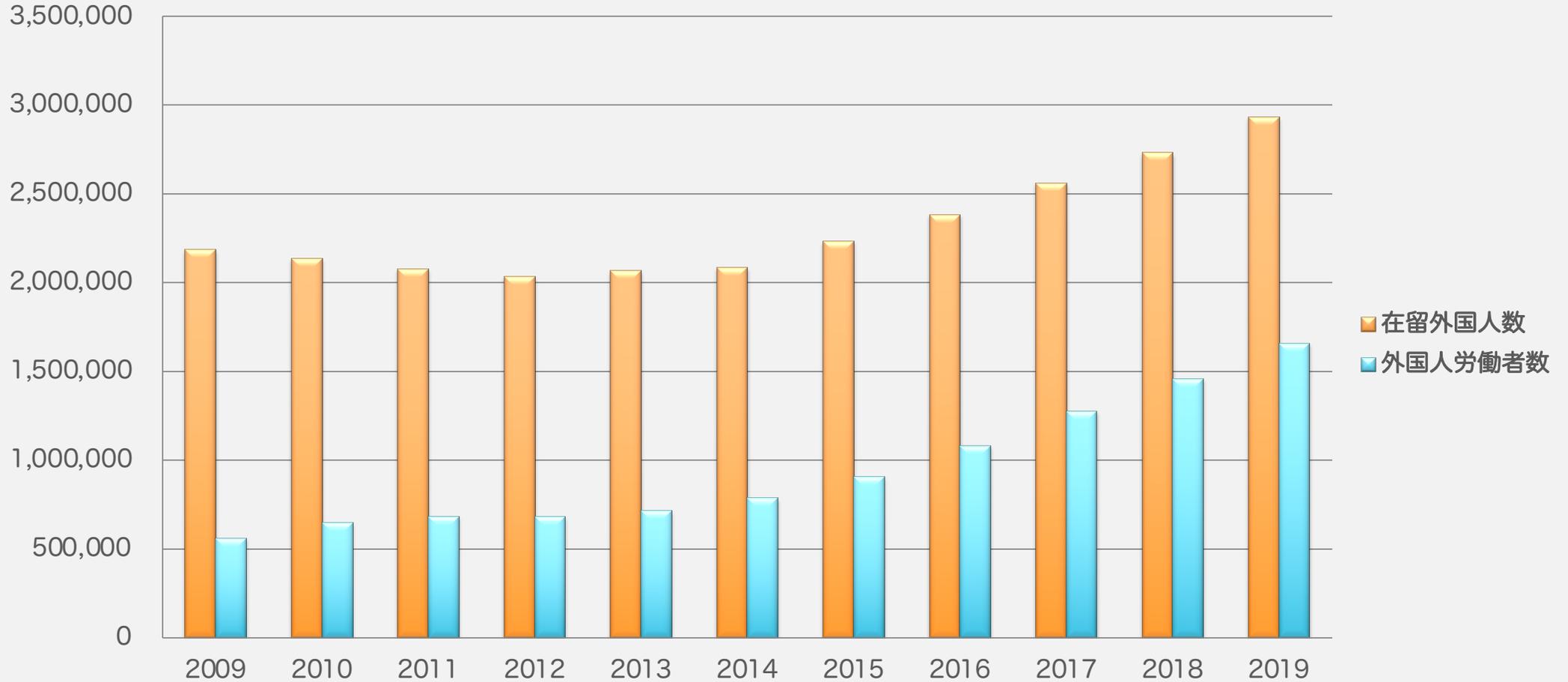
# 外国人登録者数/在留外国人人数



法務省「在留外国人統計」より発表者作成

ざいりゅう がいこくじん すう がいこくじん ろうどうしゃ すう

# 在留外国人人数と外国人労働者数



「在留外国人統計」および「『外国人雇用状況』の届出状況まとめ」より発表者作成

がいこくじん ろうどうしゃ  
外国人労働者

しゅうろうもくてき ざいりゅう みと もの せんもんてき ぎじゅつてきぶんや  
① 就労目的で在留が認められる者（専門的・技術的分野）

きぎょうけいえいしゃ きぎょう しゃいん けんきゅうしゃ べんごし いしゃ せんせい りょうりにん  
企業経営者，企業の社員，研究者・弁護士・医者・先生，料理人など

329,034人  
19.8%

みぶん もと ざいりゅう もの ていじゅうしゃおも につけいじん えいじゅうしゃ にほんじん はいぐうしゃとう  
② 身分に基づき在留する者：定住者（主に日系人），永住者，日本人の配偶者等

531,781人  
32.1%

ぎのうじっしゅう  
③ 技能実習

383,978人  
23.1%

とくていかつどう けんせつ ぞうせんろうどうしゃ  
④ 特定活動：ワーキングホリデー，建設・造船労働者 など

41,075人  
2.5%

しかくがいかつどう りゅうがくせい がいこくじん はいぐうしゃ  
⑤ 資格外活動：留学生や外国人の配偶者のアルバイト など

372,894人  
22.5%

「外国人雇用状況」の届出状況まとめ より発表者作成

いま がいこくじん う い せいさく

## 今までの外国人受け入れ政策

- 1970～：中国帰国者，インドシナ難民  
ちゅうごくきこくしゃ なんみん
- 1980～：留学生10万人計画，ビザなし渡航  
りゅうがくせい まんにんけいかく ところ
- 1990～：日系人，技能実習  
につけいじん ぎのうじっしゅう
- 2000～：留学生30万人計画，EPA看護・介護，第三国定住難民  
りゅうがくせい まんにんけいかく かんご かいご だいさんごくていじゅうなんみん
- 2010～：技能実習制度拡充，造船・建設・製造労働者  
ぎのうじっしゅうせいどかくじゅう ぞうせん けんせつ せいぞうろうどうしゃ
- 2020～：特定技能による労働者受け入れ  
とくていぎのう ろうどうしゃ う い

にほんごきょういく すいしん かん ほうりつ

# 日本語教育の推進に関する法律

ねん がつ にち こうふ しこう

2019年6月28日に公布・施行

にほんごきょういく もくてき

- 日本語教育の目的があきらかに

こくない きょうせいしゃかい じつげん

国内：共生社会の実現

かいがい こうりゅうそくしん ゆうこうかんけい いじ はってん

海外：交流促進と友好関係の維持発展

せきにんしゅたい めいき

- 責任主体を明記

くに ちほうこうきょうだんたい じぎょうしゃ

国，地方公共団体，事業者

きほん ほうしん

# 基本方針

ねん がつ にち かくぎけつてい

2020年6月23日に閣議決定

にほんごきょういく すいしん かん しさく そうごうてき こうかてき すいしん

「日本語教育の推進に関する施策を総合的かつ効果的に推進するため

きほんてき ほうしん

の基本的な方針」

がいこくじんとう じりつ げんごしようしゃ せいかつ うえ ひつよう

- (外国人等が) 自立した言語使用者として生活していく上で必要とな

にほんごのうりよく み にほんご いしそつう はか せいかつ

る日本語能力を身につけ、日本語で意思疎通を図り、生活できるよう

ひつよう

になることが必要

じりつ げんご しようしゃ

- 自立した言語使用者 = CEFRのBレベル

た ぶん か きょうせい

# 多文化共生とは

こくせき みんぞく こと ひとびと たが ぶんかてき みと あ たい

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的ちがいを認め合い、対  
とう かんけい きず ちいきしゃかい こうせいいん とも い  
等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていく  
こと」

たぶんかきょうせい

多文化共生 = conviviality → みんないっしょにわいわいたのしい

きょうせいしゃかい      じつげん      にほんご  
共生社会の実現と日本語

- <sup>にほんご</sup>日本語ができたなら、<sup>きょうせい</sup>なぜ共生が<sup>じつげん</sup>実現できるのか
- <sup>がいこくじん</sup>外国人が<sup>にほんご</sup>日本語ができるようになったら<sup>きょうせいしゃかい</sup>共生社会になるのか
- <sup>しみん</sup>市民としてできることは何か（<sup>なに</sup>市民としての<sup>しみん</sup>接点<sup>せってん</sup>）
- <sup>ぎょうせい</sup>行政は<sup>なに</sup>なにをすべきか（<sup>しくみ</sup>仕組みづくり）

わたし                                  しゃかい          つく

私たちはどんな社会を創りたいのか

わたし                  と          く                                  しゃかい                                  いち  
私たちが取り組んでいることが社会にどう位置づいているか

いま          しゃかい          すこ    かつどう          ひつよう  
今の社会を少しでもよくするためにどういう活動が必要か

げんご      ぶんか      しゃかい      ぶんみやく      ないよう      き      はな  
言語は文化，社会，文脈，内容とは切り離せない